

第56回神奈川県公衆衛生学会

(2010)

日時 平成22年11月5日(金) 10時～17時
場所 神奈川県総合医療会館

主催 神奈川県公衆衛生協会
協賛 神奈川県医師会、神奈川県看護協会、かながわ健康財団、神奈川県歯科医師会、神奈川県歯科衛生士会、神奈川県柔道整復師会、神奈川県病院協会、神奈川県病院薬剤師会、神奈川県放射線技師会、神奈川県薬剤師会、神奈川県予防医学協会、神奈川県理学療法士会、神奈川県臨床衛生検査技師会、結核予防会神奈川県支部、富士レビオ株式会社(五十音順)

*第56回神奈川県公衆衛生学会は赤い羽根共同募金会の配分を受けて開催しています。

神奈川県公衆衛生学会

月日:平成22年11月5日(金)

場所:県総合医療会館

発表演題数48題(口演 35、誌上 13)

	受付	第1会場 7階 講堂	第2会場 2階 会議室A	第3会場 1階 会議室AB	第4会場 7階ロビー
9時	9時00分 受付開始	表彰式 9:30開始 9:50終了			掲示 9:30開始
10時		口演発表 9題 10:00~11:40 グループA 自殺対策・精神保健 (9題)	口演発表13題 10:00~12:30 グループB 食品衛生(4題) グループC 感染症・疫学(6題) グループD 医療関連(3題)	口演発表 13題 10:00~12:30 グループE 母子保健(4題) グループF 口腔保健(4題) グループG 健康関連(5題)	研究奨励表彰 5題
11時					
12時					
13時		休憩 12:30~13:30			引き続き掲示
14時		特別講演 13:30開始 横浜市立大学河西准教授 「自殺問題の現状と対策: 自殺予防活動の現場から」			
15時		15:00終了 シンポジウム 15:10開始 自殺対策			
16時					
17時		17:00終了			16:30終了

主催 神奈川県公衆衛生協会

協賛 神奈川県医師会、神奈川県看護協会、かながわ健康財団、神奈川県歯科医師会、
神奈川県歯科衛生士会、神奈川県柔道整復師会、神奈川県病院協会、神奈川県病院薬剤師会、
神奈川県放射線技師会、神奈川県薬剤師会、神奈川県予防医学協会、神奈川県理学療法士会、
神奈川県臨床衛生検査技師会、結核予防会神奈川県支部、富士レビオ株式会社(五十音順)

特別講演 自殺問題の現状と対策:自殺予防活動の現場から

河西千秋

日本自殺予防学会理事
横浜市立大学医学部精神医学 准教授

わが国では平成10年(1998年)に自殺者数が激増し、その後、自殺者数は年間3万人を超えた高留まりの状況が続く問題は深刻の度を深めている。しかし、この問題は昨日今日に始まったわけではなく、自殺問題は単純に経済不況だけで説明されるようなものではない。あまり話題にされることはないが、そもそも昨今の自殺の激増よりはるか以前から日本の自殺率は先進国中最悪の水準であり、この問題が長く放置されていた事こそが問題だったのである。実際には、自殺予防学を踏まえた有効な自殺対策というのがすでに確立されており、世界のさまざまな地域や日本のいくつかの先進地域で対策が実践されている。しかし、それにもかかわらず我が国の多くの地域や領域でそれらが実施されてこなかったという“不作為”も、我が国の自殺問題には含まれている。さらに言えば、我が国の自殺問題の根底には、社会保障、あるいは保健・福祉システム不全、そして自殺を容認してしまうような社会的風土という重大な問題が横たわっている。

今や自殺は公衆衛生学上の最大課題の一つとなっている。その莫大な自殺者数から明らかなように、自殺は少年期から壮年期のどの年代においても死因の第1位から3位を占め、早世の大きな要因となっている。自殺のほとんどに健康問題が関与しており、少なくとも80%以上に精神障害が関与している。最近の大規模住民調査により、精神障害に罹患したことのある住民が相当数に上るのにも関わらず、多くが精神医療を受療していないことが明らかとなっている。このことから自殺問題の裾野は非常に広いことが分かる。自殺にはさまざまな危険因子が存在することが知られているが、最も強力な危険因子として知られているのは自殺未遂・自傷行為の既往である。これらの自殺関連行動の件数は先進国では自殺既遂者数の約10-20倍にもなることが示唆されているが、我が国では、自損行為者の搬送件数も増大し続けている。

自殺予防方略には、危険因子を有する「ハイリスク者」への対策と、「地域」への介入という2本柱がある。ハイリスク者対策として、演者らは、救命救急センターを拠点とした自殺未遂者ケアを実践してきた。救命センターには多くの重症未遂者が搬送されるが、演者らは、自殺企図による事例化を機に、未遂者に個別性の高いケース・マネジメントを実施し地域ケアにつなげている。また、演者らは、地域への介入にも携わり、現在、神奈川県大和市の自殺対策事業と、横浜市栄区のセーフコミュニティ事業に参加しているが、そこでは、県市の精神保健福祉センター、行政、保健所、そして自殺対策専門家(演者)が集い主要プレイヤーとして事業の企画と運営に携わっている。また、演者は、保健・福祉従事者ネットワークを運営している。

我が国の自殺問題の解決には、国民の意識改革を含めた社会保障のありかたとシステムのドラステックな改革が必要であろう。しかし、政治に多くを望むことができない今、この喫緊の課題に対処するために、私たちは、まず地域住民として、そして専門職/専門家として一歩踏み込んで、地域の人材と知恵を活用し、先進事例を援用しながら効果的な地域自殺対策を模索していかなければならない(下流から上流への自殺対策の推進)。このような状況下で自殺対策を立ち上げ、実践していくことは、誠に骨の折れることだと感じられるかもしれない。しかし、自殺対策とは、「命は大切」とか、「死んではいけない」を声高に叫ぶことではなく、実は、「自殺が生じることのないような地域づくり・職場づくり・医療のあり方・教育のあり方・家族のあり方・人間関係のあり方・・・」こそがその本質であり、地域保健・福祉のボトムアップと、コミュニティ意識の醸成が自殺対策の鍵だということに気づかされるのである。

河西千秋

【略歴】

山形大学医学部卒業後、横浜市立大学附属病院でのスーパーローテーション研修を経て横浜市大精神医学教室に所属。大学院で診療と研究に従事した後、カリフォルニア大学・サンディエゴ校客員研究員、藤沢病院、カロリンスカ研究所客員研究員などを経て、平成 17 年より横浜市立大学精神医学教室助教授、そして現職に至る。

【研究領域】

臨床精神神経薬理(薬理遺伝学、難治性、副作用)、行動科学、パブリック・メンタルヘルス(特に自殺予防学)

【主な所属学会】

日本精神神経学会(専門医・指導医・精神保健に関する委員会)、日本自殺予防学会(理事・研究委員会委員長)、日本臨床精神神経薬理学会(評議員・研究委員会)、日本精神科救急学会(評議員・国際交流委員会)、日本うつ病学会(評議員)、日本統合失調症学会(評議員)など

【主な著書(自殺予防関連)】

「自殺予防学」(新潮社)、「プライマリ・ケア医による自殺予防と危機管理」(編著、南山堂)、「Text Book of Suicidology」(分担執筆、Oxford University Press)、「自傷と自殺:思春期における予防と介入の手引き」(監訳、金剛出版)、「自殺予防の実際」(分担執筆、永井書店)、「WHO・自殺予防の手引き」(監訳、横浜市立大学精神医学教室)など

【研究助成・委嘱など(自殺予防関連)】

厚労科研費補助金事業「自殺対策のための戦略研究・救急介入研究 (ACTION-J)」事務局長(分担研究者)

厚労科研費補助金事業「自殺未遂者及び自殺者遺族へのケアに関する研究」(分担研究者として保健福祉従事者、救急医療従事者のための未遂者ケア・ガイドラインを作成)

厚労科研費補助金事業「自殺のハイリスク者に関する実態解明および自殺予防に関する研究」(分担研究者)

厚労科研費補助金事業「自殺対策のための複合的介入法の開発に関する研究」(分担研究者)

厚労省・地域自殺対策推進事業「神奈川県大和市における自殺予防のための地域介入事業」における事業評価委員長、大和市自殺対策連絡協議会座長

日本医療機能評価機構・認定病院患者安全推進協議会・病院内の自殺予防および事後対応に関する検討会座長など

テーマ 「自殺対策」

座 長

藤沢市保健所長

鈴木 仁一

シンポジスト

横須賀市保健所健康づくり課の自殺対策

横須賀市保健所健康づくり課長

高木 英俊

横浜市の自殺対策の現状

横浜市こころの健康相談センター所長

白川 教人

大和市自殺対策モデル事業の取り組みについて

大和市健康福祉総務課政策調整担当主幹

渋谷 一郎

自殺防止対策への大和保健福祉事務所の取り組み

大和保健福祉事務所保健予防課専門福祉司

土屋 史雄

自殺問題及びその対策に関して、法律家としての取り組みについて

神奈川県司法書士会司法書士

上村 政行

神奈川県における自殺対策の地域展開への取り組み

神奈川県精神保健福祉センター相談課長

佐々川 洋子

シンポジウム 「自殺対策」の趣旨

藤沢市保健所長

鈴木 仁一

わが国では12年連続で自殺による死者は3万人を超えている。胃がんによる死亡者数とほぼ同じである。フィンランドにおいては総合的に自殺対策に取り組むことにより、自殺者数の減少が証明されている。

わが国においても平成18年に自殺対策基本法が制定され、国を挙げての自殺対策の取り組みが開始され、国家戦略の確定およびその実施体制の基盤整備の段階を終えて、市町村・県・国が一体となった広汎かつ本格的取組みの段階へと突入しつつある。神奈川県においてもこれまでの「こころといのちのサポート事業（自殺対策）」の成果をふまえ、市町村と保健福祉事務所（保健所）と精神保健福祉センター、県が、NPO法人、企業等との連携の上、自殺対策を一層推進することが求められている。今回、神奈川公衆衛生学会において、自治体等の関係者（実務担当者レベル）の意識・理解の向上を図り、具体的な事業の実施に資するように、シンポジウムを企画した。シンポジストからは、できるだけ具体的で、成果のあがる対策・事業について紹介していただく予定であり、聴衆からの積極的な参加を期待するものである。

第56回神奈川県公衆衛生学会発表演題

第一会場(7階講堂)口演発表

10:00~11:40

グループ A	(9題 自殺対策・精神保健)		
演題No.	演題名	演者	所属
	座長・神奈川県保健福祉局保健予防課グループリーダー 晝場 壽代		10:00~10:40
1	横須賀市における自殺未遂者対策について	綿引 智子	横須賀市保健所
2	「自殺未遂者支援に関する一考察」 —保健所精神保健福祉相談員として関わった事例を通して—	宮川 啓子	横須賀市保健所
3	横浜市における自殺の現状—神奈川県警のデータの解析—	宇佐美 実紀	横浜市衛生研究所
4	横浜市(自死)遺族の集い「そよ風」の現状と課題 —自死遺族支援における精神保健福祉センターと 分かち合いの会参加者との協働—	一青 良太	横浜市こころの健康相談センター
	座長・鎌倉保健福祉事務所長 深澤 博史		10:50~11:40
5	平成16~21年度の神奈川県域における法第25条通報(検察官通報) の実態と課題:6年間の比較分析から ~医療観察法との関連をふまえて~	海野 匡	神奈川県精神保健福祉センター
6	神奈川県域における自殺に関する統計分析—地域分析— その1	山田 美緒	神奈川県精神保健福祉センター
7	神奈川県域における自殺に関する統計分析—地域分析— その2	山田 正夫	神奈川県精神保健福祉センター
8	地域自殺対策推進事業の報告と今後の地域支援について —モデル事業の検証と市町村への効果的な事業の拡大にむけて—	石塚 祥子	神奈川県精神保健福祉センター
9	地域自殺対策推進事業の報告と今後の地域支援について —自殺予防のための人材養成の取り組み—	小池 小夜子	神奈川県精神保健福祉センター

第一会場(7階講堂)特別講演・シンポジウム

13:30~15:00

特別講演

テーマ「自殺問題の現状と対策:自殺予防活動の現場から」

講師 横浜市立大学医学部精神医学准教授

河西 千秋

座長 神奈川県精神保健福祉センター所長

桑原 寛

15:10~17:00

シンポジウム

テーマ「自殺対策」

座長 藤沢市保健所長

鈴木 仁一 15:10~17:00

シンポジスト

横須賀市保健所健康づくり課の自殺対策

横須賀市保健所健康づくり課長

高木 英俊

横浜市の自殺対策の現状

横浜市こころの健康相談センター所長

白川 教人

大和市自殺対策モデル事業の取り組みについて

大和市健康福祉総務課政策調整担当主幹

渋谷 一郎

自殺防止対策への大和保健福祉事務所の取り組み

大和保健福祉事務所保健予防課専門福祉司

土屋 史雄

自殺問題及びその対策に関して、法律家としての取り組みについて

神奈川県司法書士会司法書士

上村 政行

神奈川県における自殺対策の地域展開への取り組み

神奈川県精神保健福祉センター相談課長

佐々川 洋子

第二会場(2階会議室A)口演発表

10:00~10:40

グループ B	(4題 食品衛生)
-----------	-----------

座長・横浜市衛生研究所上級研究員 高津 和弘

演題No.	演題名	演者	所属
10	鶏肉からのカンピロバクター検出における増菌培養法の検討	佐野 達哉	川崎市衛生研究所
11	ヒスタミン生成菌によるカジキ加工品の汚染状況	伊達 佳美	神奈川県衛生研究所
12	魚介類加工食品における「えび・かに」表示の実態調査について	渡邊 裕子	神奈川県衛生研究所
13	キウイフルーツの品種によるアレルギー(アクチニジン)の差異に関する検討 ~安心して食べられる神奈川の名産品づくりを目指して~	金山 けい	神奈川県衛生研究所

10:50~11:50

グループ C	(6題 感染症・疫学)
-----------	-------------

座長・横須賀市保健所疾病予防担当課長 土田 賢一

演題No.	演題名	演者	所属
14	小児を対象とした遺伝子学的解析によるウイルス性胃腸炎の疫学的検討	辻原 佳人	神奈川県立汐見台病院
15	急性胃腸炎を起こすウイルスの感染症例について -ノロウイルス・サポウイルス・ロタウイルスの症例紹介-	片山 丘	神奈川県衛生研究所
16	横須賀市立小学校・中学校での新型インフルエンザ罹患状況	土田 賢一	横須賀市保健所
17	神奈川県域の結核接触者健康診断におけるQFT検査について	高橋 智恵子	神奈川県衛生研究所
18	平成21年の横浜市衛生研究所の情報提供 -地方感染症情報センターとして-	高野 つる代	横浜市衛生研究所
19	今年の猛暑における救急搬送からみる熱中症の実態	段木 登美江	横浜市衛生研究所

12:00~12:30

グループ D	(3題 医療関連)
-----------	-----------

座長・衛生研究所長兼茅ヶ崎保健福祉事務所長 玉井 拙夫

演題No.	演題名	演者	所属
20	神奈川県悪性新生物登録事業で把握した予後情報の活用 (平成21年度調査研究助成金交付研究)	夏井 佐代子	神奈川県立がんセンター
21	医療被ばく記録手帳「レントゲン手帳」の普及活動について	曾我部 和美	汐田診療所
22	職種別におけるルクセルバッチのデータについて	鬼頭 菜穂子	神奈川県放射線技師会

第三会場(1階会議室AB)口演発表

10:00~10:40

グループ E	(4題 母子保健)
-----------	-----------

座長・平塚保健福祉事務所保健福祉部長 志賀 愛子

演題No.	演題名	演者	所属
23	小児慢性特定疾患児への在宅支援体制構築に関する検討 ～療養状況調査、指導用媒体作成の振り返り～(第2報) (平成21年度調査研究助成金交付研究)	石川 奈穂	秦野保健福祉事務所
24	足柄上地域における「妊産婦とその家族への禁煙支援事業」の取り組み (第2報) ～3歳児健診以降の幼児とその家族を対象とした支援の展開～	栢沼 ひと美	足柄上保健福祉事務所
25	10代の妊産婦支援の試み ～Teeeen`s Mamサロン実施後の報告と今後の実施に向けて～	松尾 志保	横須賀市こども健康課
26	エコチルかながわの取り組み	横田 俊平	横浜市立大学医学部小児科

10:50~11:30

グループ F	(4題 口腔保健)
-----------	-----------

座長・厚木保健福祉事務所保健福祉部長 北原 稔

演題No.	演題名	演者	所属
27	横須賀市成人歯科健康診査の現状と分析	高橋 邦子	横須賀市保健所
28	知的障がい者通所施設(作業所等)での口腔ケア自立支援について ～(第1報)口腔ケア自立の状況と支援効果～	若林 良孝	足柄上保健福祉事務所
29	知的障がい者通所施設(作業所等)での口腔ケア自立支援について ～(第2報)実施プロセスと支援内容から～	飯澤 智子	厚木保健福祉事務所
30	知的障がい者通所施設(作業所等)での口腔ケア自立支援について ～(第3報)地域連携づくりと今後の課題～	北原 稔	厚木保健福祉事務所

11:40~12:30

グループ G	(5題 健康関連)
-----------	-----------

座長・足柄上保健福祉事務所長 ハッ橋 良三

演題No.	演題名	演者	所属
31	「認知症地域支援体制構築推進等事業の取り組み ～モデル地域での展開～」	志波 直子	茅ヶ崎保健福祉事務所
32	職場での生活習慣病予防の取り組み	山岸 栄子	神奈川県精神保健福祉センター
33	回復期脳卒中患者の自宅復帰予後予測 ～家屋評価の有無に着目して～ (平成21年度調査研究助成金交付研究)	小林 裕明	澁野辺総合病院
34	足柄上保健福祉事務所における災害時要援護者対策の取り組み ～市町支援の立場から～	立石 泰子	足柄上保健福祉事務所
35	新任保健師の業務上の困り感と課題 ～県における新任保健師への調査から～	田中 智子	神奈川県保健福祉人材課

誌上発表

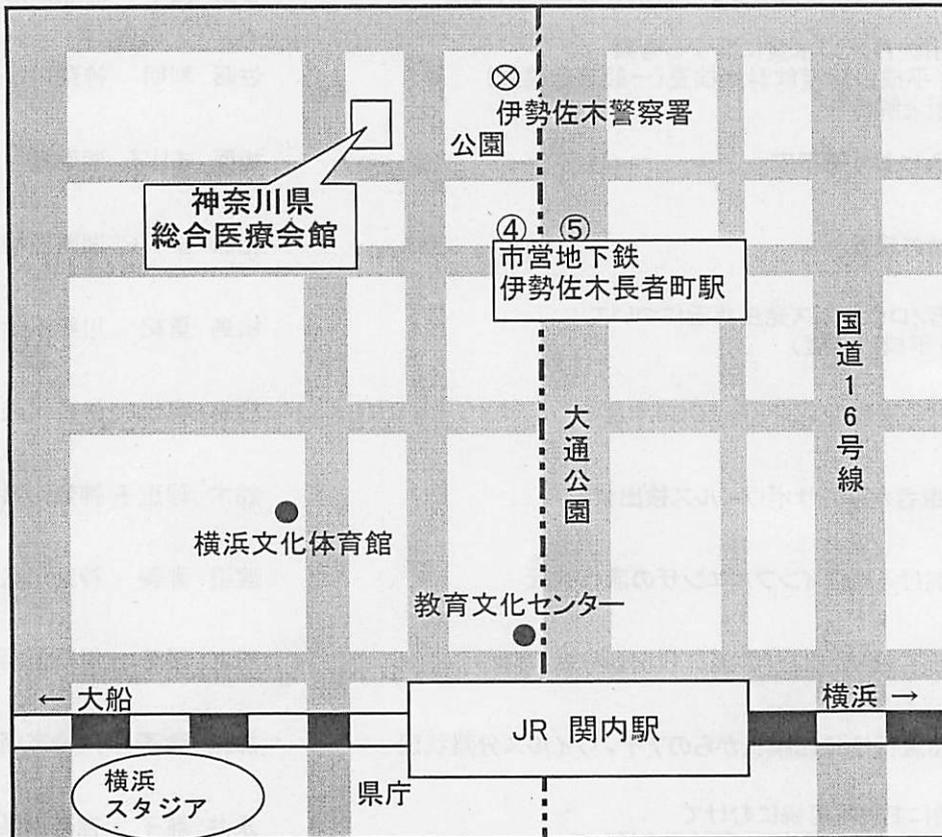
演題No.	演題名	代表者	所属
36	子どもを亡くした保護者への地域での支援のあり方について	遠藤 志保	小田原保健福祉事務所
37	事業所における喫煙と歯周病との因果関係について	大矢 享	神奈川県歯科医師会
38	歯科検診からわかる福祉援護センター利用者の口腔内環境	石田 直子	湘南短期大学歯科衛生学科
39	足柄平野の飲用井戸水の水質に関する考察 —平成20年度、平成21年度飲料水検査(一般項目検査) 実施結果の集計と解析—	佐藤 利明	神奈川県衛生研究所
40	食品添加物輸入に対する不安	相原 まり子	湘南短期大学
41	食を脅かす動物の病気	相原 まり子	湘南短期大学
42	川崎市におけるノロウイルス発生状況について (平成20年度～平成21年度)	松島 勇紀	川崎市衛生研究所
43	神奈川県における放射能調査 —2009年度—	飯島 育代	神奈川県衛生研究所
44	感染性胃腸炎患者からのサポウイルス検出状況	鈴木 理恵子	神奈川県衛生研究所
45	神奈川県域における新型インフルエンザの流行状況	渡邊 寿美	神奈川県衛生研究所
46	川崎市におけるインフルエンザの流行状況(平成21年度)	石丸 陽子	川崎市衛生研究所
47	川崎市における流行性角結膜炎からのアデノウイルス分離状況	加納 敦子	川崎市衛生研究所
48	地域・職域保健における連携にむけて —職域におけるがん検診実態調査結果を通して—	永井 雅子	神奈川県健康増進課

会場案内図

月日 平成22年11月5日(金) 10:00~17:00

場所 神奈川県総合医療会館7階講堂

*7階講堂ロビーに受付がありますので、そちらにお越しください。



神奈川県総合医療会館

横浜市中区富士見町3-1

交通手段

横浜市営地下鉄「伊勢佐木長者町駅」4番、5番出口下車徒歩3分

JR京浜東北線「関内駅」南口下車徒歩10分